

巻頭言

探検は知的情熱の肉体的表現である。

Exploration is the physical expression of the intellectual passion.

Apsley Cherry-Garrard (1886-1959)

子供のころから、本やテレビで知った探検家という存在に憧れていた。高校で山に登り始め、大学で海に潜り始めたが、これらは僕にとっての探検だった。ポストドクのころには、年間に100本以上も海に潜った年もあった。そのころに海の師匠が「探検は知的情熱の肉体的表現である」という言葉を教えてくれた。1911-12年のスコット南極探検隊に参加した動物学者 Cherry-Garrard の言葉である。この言葉に出会い、自分がなぜ山に潜るのか、海に潜るのか、そして旅に出るのか、自分の行動原理がすっきりと腑に落ちたように感じた。この言葉はそのまま研究についても当てはまる。「探検 Exploration」は「研究」と読み換えることができる。脳も肉体である。何かを知りたい、明らかにしたいという知的な思いが、自分の体を動かす、これが研究の本質だ。当たり前なことだが、Cherry-Garrard の言葉はそれを簡潔に力強く表現している。

宇宙を相手にしては直接そこに行って探検することは難しい。だから僕らは望遠鏡を使ったり、探査機を送ったり、計算機を使って、間接的に探検を行う。僕は計算機を使って惑星を作る実験(シミュレーション)をしている。理論を確認するためのシミュレーションも重要だが、どのような現象が起きるのか調べる発見的なシミュレーションは特に楽しい。結果が出るのをわくわくしながら待つ。ときには予期していなかった不思議な結果が出ることもあって、ほとんどの場合はモデルが不適切だったり計算間違いのためだが、まれにこれまで気がついていなかった新しい何かであることがある。そんな発見が何よりも楽しい。

探検が進むほどに新たに好奇心が掻き立てられていく。僕が大学院生のころは全く顧みられていなかったようなモデルや物理の重要性が明らかになり、探検すべき新しい世界が広がっていく。そんな新世界を自分の足で歩める探検家でありたい。

小久保 英一郎(国立天文台)